

特集

〈事例〉

女性職員が集結し イベントを作り上げる

公益社団法人
香川県シルバー人材センター連合会
(香川県)

令和7年11月27日、香川県SC連合会は「シルボンヌin香川2025 ブラッシュアップ〜輝き続ける人生を〜」を開催。安藤和津氏の基調講演や、会員によるファッションショー、楽器演奏、活動紹介などが行われた。また県内の13センターが出展し、手作り品などを販売した。女性職員が企画・運営を担った「手作り」の大会は好評で、来場者アンケートでは9割以上が「満足」「やや満足」と回答した。

女性会員「手作り」の大会

香川県SC連合会（以下、連合会）は、令和7年11月27日11〜16時、サンメッセ香川（高松市）の大展示場で「シルボンヌin香川2025 ブラッシュアップ〜輝き続ける人生を〜」を開催した。

連合会の樋口成美事務局次長は、「香川県のセンターでは会員数の減少が続いており、会員に占める女性の割合が低い状況にありました。そこで、実行委員会を設置して、女性会員拡大に向けたイベントを行おうということになったのです。そんな時、シルボンヌ地域大会の開催地として採択されました」と経緯を説明する。

実行委員会は、仲善広域SCと多度津町SCから各2人、樋口事務局次長の計5人の女性職員で構成される。令和6年12月23日の事前打ち合わせを経て、実行委員会の活動が本格的にスタートした。令和7年1〜10月にかけて実行委員会を4回開き、全シ協とも相談しながら開催場所や名称、内容などを決めていった。

また、県内のセンターの女性職員に向けて周知会を4回開催。実行委員会で協議した内容を周知するとともに、大会のサポートを呼び掛けた。周知会には毎回、県内の女性職員35人のうち24〜25人が参加したという。

樋口事務局次長は、女性職員に

連携を求めた理由を「イベントへの参画意識を持ち、女性会員拡大を全体の共通目標として捉えて取り組みたいと考えた」と説明する。これを機に、他センターの職員との交流を深め、気軽に相談し合える関係を築いてほしいという思いもあつたそうだ。

加えて、イベント会社を通さず、自分たちで企画・運営する「手作りのイベント」を目指していたため、マンパワーを確保する目的もあつた。

会場のテーブルの配置や、来場者に提供する菓子や粗品の選定、スタッフTシャツのデザインなどについても、周知会で女性職員に意見を聞いて決めた。また女性職

安藤和津氏が「明日を素敵に生きるには」をテーマに、基調講演を行った



員は、ステージ担当と出展ブース担当に分かれて、それぞれが登壇者や参加センターと連絡を取り合ったり、必要な備品を取りまとめたりして段取りを整えていった。

一つの会場でプログラムと展示・販売を実施

大会を通して、会員拡大と女性職員間の交流を実現し、なおかつ女性会員に楽しんでもらうために、企画・運営面ではさまざまな工夫



会場には大型スクリーンや丸テーブル、椅子を配置するなど設営にも工夫を凝らした

を凝らした。

まず、各センターの参加会員の上限を30人に設定。未入会者を連れての参加を原則とした。このような方法で、大々的に広告を打たなくても、多くの未入会者が来場する仕掛けをつくったのである。

基調講演などを行うステージと客席、出展ブースを同じ会場内に設けたのも特徴だ。樋口事務局次長はその狙いを、「会場を分散させると、出展ブースにいる会員がス

テージを見られません。今大会は、会員にも楽しんでほしかったので、広い会場を借りました」と説明。

また、ステージから離れた場所においても登壇者の様子が見えるよう、270インチの大型スクリーンを設置した。さらに、来場者が飲み物や菓子と共に歓談を楽しめるよう、会場に丸テーブルと椅子を配置し、飲み物を入れるためのキッチンカーを用意した。

イベントの目玉

安藤和津氏による基調講演

大会当日は、県内各地からの参加者319人（会員135人、一般市民184人）と、演者42人、職員89人、県外関係者131人、来賓8人の合計589人が集まった。また、県内15センター中13センターがブースを出展した。

大会は、連合会の岡本基樹会長の開会あいさつで幕を開け、続いて来賓によるあいさつが行われた。その後、「明日を素敵に生きるには」

をテーマに、エッセイスト・コメンテーターの安藤和津氏が基調講演を行った。

「令和6年に山口県で行われた地域大会の基調講演で、安藤氏が気さくに話す姿を見て、ぜひ香川県大会でも話をしてほしいと思い、依頼しました」と樋口事務局次長。安藤氏は講演で、「シニア世代が身に付けた経験値は宝。持ち腐れにせず、世の中に還元してほしい」と呼び掛けた。

講演後の25分間のティータイムでは、ステージで、坂出市SCが大正琴を演奏。その演奏をBGMに、来場者はあらかじめ配られた菓子と入れたてのコーヒーや紅茶を味わった。また、司会を務める会員が、各ブースを回って展示物や商品を紹介。その様子は、大型スクリーンにも映し出された。

同好会活動や

ユニークな事業を紹介

ティータイムの後は、女性会員



県内の13センターが出展し、会員が栽培した野菜などの販売や手芸品などの展示を行った

による活動紹介が行われた。同好会活動やユニークな事業を紹介することで、「シルバー人材センター」といえば、草刈り・剪定」というイメージからの脱却を図る狙いもあった。

活動紹介のトップバッターとしてステージに上がったのは、仲善広域S.C。ソーイング・リフォーム同好会「もみじの会」が、ファッションショーを行った。着物をリフォームした作品を身にまとい、

さつそうとランウェイを歩く会員もいれば、車椅子に乗った会員、つえをついた会員もモデルとして登場。体の不自由な人にもファッションを楽しんでほしいという思いが込められたこのショーを見て、「さまざまな人に働く場を提供するシルバー人材センターならではの」と感想を述べる人もいた。続いて登壇したのは、高松市S.Cの「シルバー音楽隊」。「カスターネットでもいいから、楽器を演奏

したい人」と募集して結成されたこのグループは、ギターやハーモニカなどで「月の砂漠」「荒城の月」などを演奏した。

多度津町S.Cは、イチジクの栽培・収穫から、ジャム、アイスクリーム作り、販売までを手掛ける独自事業を紹介。坂出市S.Cは、労働者派遣事業として受注している、うたづ海ホタルの塩田で行う塩の選別作業について発表した。

観音寺市S.Cは、琴禅公園の有明浜に描かれた巨大な砂絵、「銭形砂絵」「寛永通宝」での除草ボランティア活動について紹介した。

登壇した会員は、「時間的にも体的にも適切で仕事がしやすい」「配分金で旅行に行くのが楽しみ」「仲間や利用者との交流が、心の栄養になる」などと話した。

エンディングでは、埼玉県草加市S.Cのサークル「よさこい銀翔」のメンバー約30人が、よさこい演舞を披露。樋口事務局次長は「令和6年のシルボンヌ全国大会で見

たパワフルな演舞を、会員にも見せたかった」と今回招いた理由を語った。

ステージでのパフォーマンスの後には、よさこい銀翔のメンバーが来場者によさこい演舞をレクチャー。最後はメンバーもステージから降りて、来場者や出展ブースの会員と輪になって、よさこい演舞を楽しんだ。

奈良県S.C協議会の宇田秀子会長も踊りを楽しみ、やや息の上がつた状態で「ぜひ入会して、シルバー人材センターで楽しく過ごしましょう」とあいさつし、大会は閉幕した。出口では、大会の企画・運営を担った職員が来場者からアンケートを受け取り、花を手渡して見送った。

来場者の9割以上が満足

樋口事務局次長は「最初は、職員が関わってくれるか不安でした。しかし、そんな心配は杞憂に終わり、みんな積極的に意見を言い、

サポートしてくれたおかげで、無事大会を終えることができました」と振り返る。

例えば、ブースでの展示物や商品は、イベントの経験が豊富なセンター職員の意見を参考に、ブースの枠内に陳列。その結果、見た目のきれいさとステージの見やすさを確保できたという。

また、時間内に来場者全員へテイクアウトの飲み物を配れるか懸念していたが、女性職員のてきぱ

きとした動きのおかげでスムーズに配れたようだ。

もつとも、業者が介入してないため、不備もあつたという。「一番の反省点は、県外関係者の席が、後方のテーブルのない椅子席になつたことです」と樋口事務局次長は話す。

しかし、手作りのイベントでありながら来場者の満足度は高く、アンケートでは、来場者の9割以上が「満足」「やや満足」と回答し

た。また、未入会者の総合満足度も高く、入会意識アンケートでは、123人中8人が「入会したい」、52人が「検討したい」と回答した。

大会後は、各センターが入会無料キャンペーンを活用して、入会希望者や、入会を検討している未入会者に対して、入会説明会を行うことにしている。

会員の反応も良く、他センターのブースから刺激を受けて、「次は自分も参加したい」「手芸などの同

好会を作りたい」との声が上がっているという。

スタッフとして大会に携わった女性職員の満足度も高かった。「センター同士のつながりができて良かった」との職員の声を受けて樋口事務局次長は、「目標の一つだった職員同士のつながりを作れたのは、大きな成果です」と評価する。

令和8年は、連合会が30周年を迎える節目の年となる。連合会は記念行事の実施に向けて、今回の経験を生かし、県内の全センターと連携していきたいとしている。

樋口事務局次長は「香川県には15センターしかありませんが、だからこそ集まりやすいというメリットがあります。このメリットを生かしながら、今後もイベントを企画して、職員や会員の交流を促進したいと思います。そしていずれば、センターが企画・運営し、連合会がサポートする体制を確立したいと考えています」と語った。

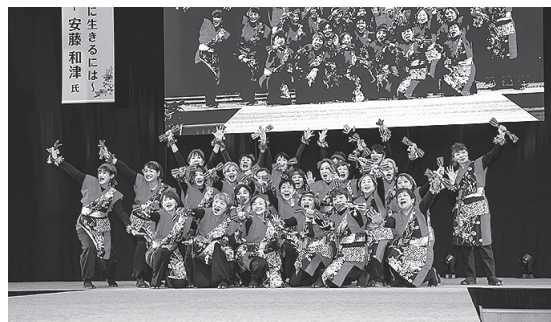
(井本旬子)



高松市SCの「シルバー音楽隊」は、ギターやハーモニカによる演奏を披露した



多度津町SC、坂出市SC、観音寺市SCの女性会員が登壇し、それぞれが取り組んでいる活動について発表した



埼玉県草加市SCの「よさこい銀翔」が特別公演として、よさこい演舞を披露した